

こらぼワーク 福祉住環境事業部にできること

一人ひとりにあったサポートで
毎日の暮らしをもっと明るく、笑顔に。

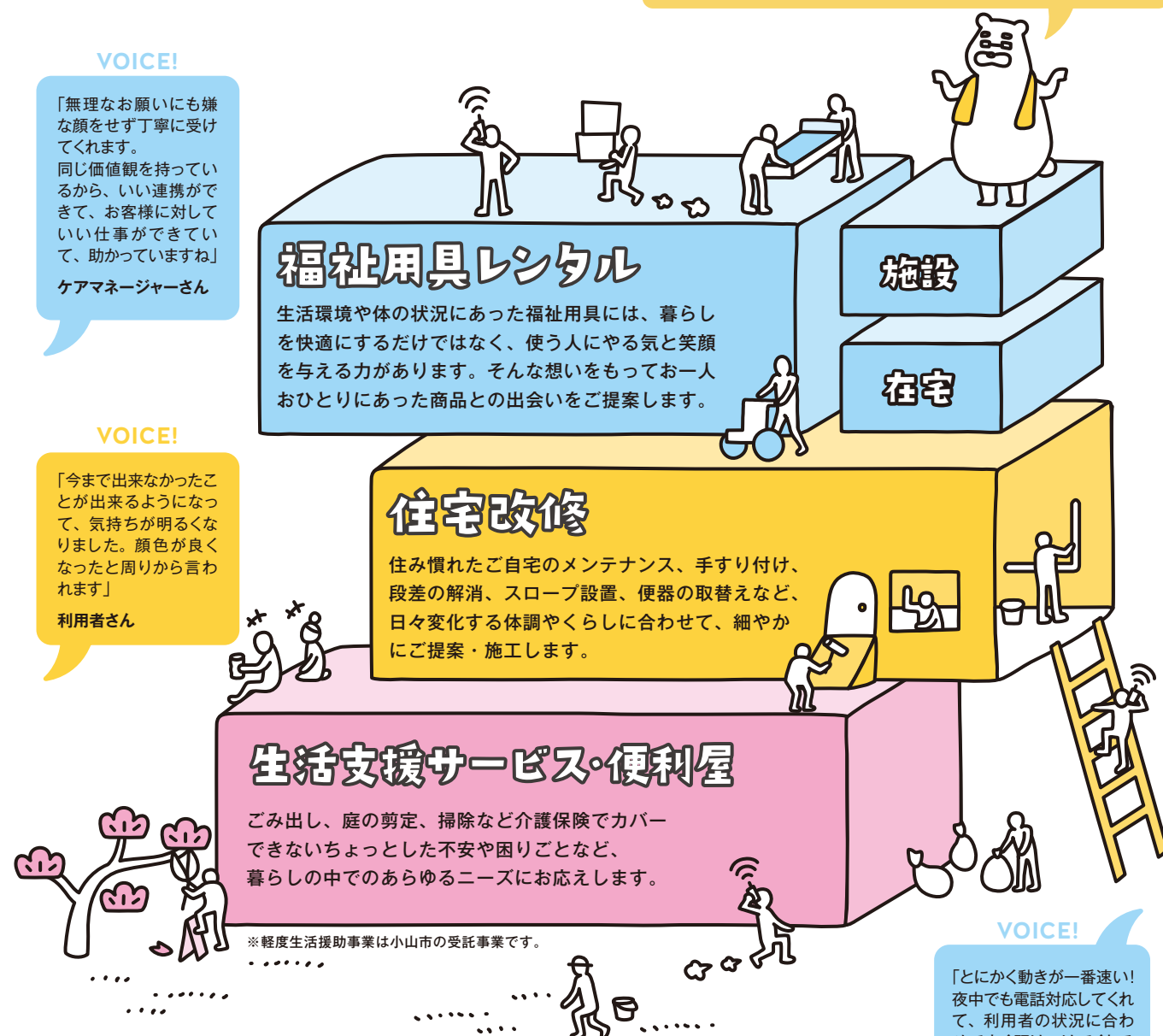
世の中の困りごとには色々な行政の支援制度がありますが、活用するのが難しいというのが現状。福祉住環境事業部では支援制度を利用しながら、福祉用具のレンタルやバリアフリー改修、生活支援サービスで、暮らしを安心快適にするお手伝いをしています。

VOICE!

「無理なお願いにも嫌な顔をせず丁寧に受けてくれます。同じ価値観を持っているから、いい連携ができて、お客様に対していい仕事ができている、助かっていますね」
ケアマネージャーさん

VOICE!

「今まで出来なかったことが出来るようになって、気持ちが明るくなりました。顔色が良くなったと周りから言われます」
利用者さん



VOICE!

「とにかく動きが一番速い！夜中でも電話対応してくれて、利用者の状況に合わせてすぐ駆けつけてくれるので頼りにしています」
ケアマネージャーさん

困ったら相談！



仲間と一緒に、仕事をつくる



介護・福祉の困りごとをサポート！

こらぼワーク 福祉住環境事業部

お問合せ・ご相談はこちらまで！

☎028-645-5561

受付時間 月曜～金曜 9:00～17:30

<http://www.kyoudou.net/>

福祉住環境事業部

〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2
tel 028-645-5561 fax 028-684-2403

小山事業所

〒323-0808 栃木県小山市出井 1523-19
協栄流通(株)小山物流センター内
tel 0285-25-1805 fax 0285-25-1816

こらぼワークプレス



Co-Labo Work
Press

一人ひとりの生き方によりそう介護

介護を支える福祉住環境サポート

Supporting Nursing Care And Welfare

こらぼワークの福祉住環境事業

<http://www.kyoudou.net/>



人と人が



支え、



支えられ、



笑って生きられる



社会を、つくるんだ。



SUPPORTING NURSING CARE AND WELFARE

一人ひとりの生き方に、 よりそう介護

こらぼワークの福祉住環境事業

CO-LABO WORK

人生を最期まで自分らしく生きる。
そのために何をすべきか、どういう形で最期を迎えたいか…
ご本人とご家族の想いを実現させるために
「人」と「人」とが丁寧に関わりあいながら形にしていく。
クリエイティブで温もりのある仕事が「介護」だと、
こらぼワークは考えます。

体の状態や暮らしぶりは十人十色。
一人ひとりに寄り添うようなサービスを提供することで
暮らしの基本を支え、より安心な毎日をサポートする。
こらぼワークは、この社会の中で“福祉の拠り所”となることで、
その人らしい介護を応援しています。

みんなで支える

お年寄りを支える社会のしくみ

くらしを支えるのは人。

温かい福祉社会を目指して

急速にやってきた少子高齢化社会は、「介護」が特別なことではなく、「福祉」が自分に直接かわることだと気付かせてくれました。社会は複雑化し、制度だけでは介護福祉の問題を解決出来ない時代に突入しています。そこで求められているのが、支え合いながら誰もが自分らしく生きること目指したコミュニティづくり。それは「地域包括ケアシステム」という形で整備が始まっています。

病気になったら

医療



病院(診療所・歯科診療所)
薬局など

こらぼワーク福祉住環境
事業部のマスコット
こらぼクマ

地域包括支援センター

ケアマネジャー／社会福祉士／保健師
介護相談業務や
各種サービスのコーディネート

地域包括ケアシステム

いつまでも元気で暮らすために

生活支援
介護予防



住まい

自宅・サービス付き高齢者住宅

介護が必要になったら

介護

在宅系 訪問介護・訪問看護
デイサービス
ショートステイ
施設系 介護老人福祉施設
介護老人保健施設

こらぼワーク
福祉住環境事業部

・福祉用具レンタル ・高齢者向け住宅改修
・介護用品販売 ・生活支援サービス／便利屋

おしえて！
のぞき目！
番外編
こらぼワーク理事長のためにな〜る話



「あつ、こらぼクマ! ちょうど聞きたいことがあったんだ。ボクらがオトナになるまでに介護保険制度ってどうなるの? この国は大丈夫なの??」



「やあ、坊や。相変わらず時事ネタに明るいね。いま医療や介護の仕組みを整えるために、市区町村が主体となる「地域包括ケアシステム」の整備が始まっているんだよ」



「地域包括ケアシステムが始まると、どうなるの?」



「住まい、医療、介護、保健、生活支援など、地域を丸ごとケアするサービスが受けられるようになるんだ。高齢者だけでなく、障害者や子ども、生活に困っている人など地域に住むいろいろな人の声を聞いて必要な支援をみんなで協力しようという体制になるんだね。こらぼワークもその仕組みの一端を担っているんだよ〜」



「ふーんナルホド。ボクにも何か力になれることはある?」

介護のおしごと

介護現場を支えるエキスパートたち

利用者一人ひとりに合わせたサービスが必要な介護の現場。

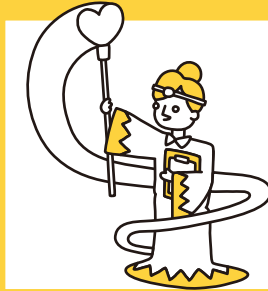
そのため現場に携わる職種は様々です。

介護現場を支えるエキスパートとその役割をご紹介します。



ソーシャルワーカー

福祉関係の法律や制度、カウンセリングを行うための心理学など幅広い知識を持つ。支援相談員や生活相談員として、高齢者や障がい者、家族に対して介護・家庭・金銭事情などの相談と全般的なアドバイスをする。



ケアマネジャー

支援や介護が必要な方の課題分析とケアプラン作成、そしてサービス事業者との調整や介護保険の給付管理を行う。



ヘルパー(訪問介護員)

訪問先の住まいでの、家事援助(掃除、洗濯、買い物など)、食事・排泄・着替え・入浴などの身体介護。介護系スタッフのなかで最も利用者さんと接する機会が多い。



介護福祉士

訪問先の住まいや、通所・一時入所、施設、特定施設などの家事援助や、食事・排泄・着替え・入浴などの身体介護。現場の責任者になったり介護者に対して介護の指導を行うこともある。



福祉用具専門相談員

要介護者の身体状態に応じた福祉用具の紹介と貸与、販売などを行う。豊富な商品知識やメンテナンス技術が必要で、車椅子や介護用ベッドなど要介護者の状態に合わせたものを提供する。



福祉住環境
コーディネーター

要介護者が自宅ですでに自立して安全に暮らし続けられるよう、手すりやスロープの設置といった住宅改修の手配・実施などを行う。



機能訓練指導員

PT(理学療法士)・OT(作業療法士)・ST(言語聴覚士)などの職種があり、運動療法や作業療法など効果的なリハビリを行い、利用者の機能回復を支援をする。



行政担当

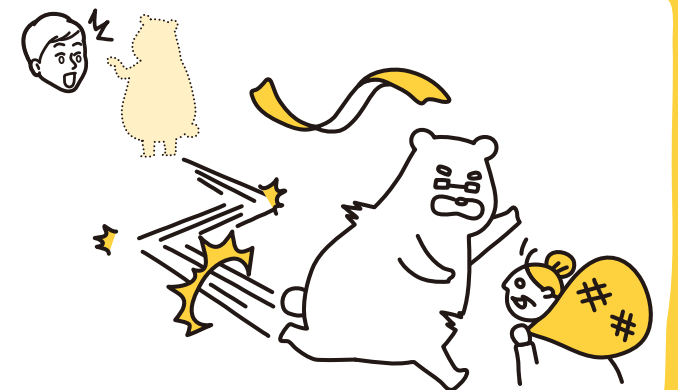
市民みんなの窓口となり、介護事業者の紹介、補助・負担軽減制度の説明などを行う。



「スバラシイね。その気持ち大切なんだよ。みんなが福祉に興味を持ってサポートが必要な人への共感を持つことが社会的な受け皿になって、温もりのあるコミュニティを築くエネルギーになると思うんだ〜」



「ナルホドね。あつ! あんなところに困っているお年寄りを発見! 今すぐ助けに……! っ、はやっ! さすが見た目に似合わずスピードスターの異名を持つこらぼクマ!!!」



INTERVIEW

サービス付高齢者住宅 アナベル土塔 NPO 法人 あじさい

家族も、施設も、繋がり良好
オープンな空気であふれる、第2の家。

MIKAKO KANNO

菅野 美加子さん

副理事長兼統括管理者
介護支援専門員

AKIO SUZUKI

鈴木 昭夫さん

こらぼワーク
福祉住環境事業部
社会福祉士／福祉用具プラン

残された時間を、ベストなものに。

介護の
現場を
めぐる旅



サービス付き高齢者住宅

「最期まで一緒だね」と 笑って見守ってくれる場所。

小山市住宅地の一角にある、一見マンションのような外見のNPO法人あじさい。サービス付き高齢者住宅（以下“サ高住”）、通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業を展開している事業所だ。

施設長兼ケアマネの菅野さんはまるで花のような人。「私、いつも入り口の受け付けにいるんです」と可憐に笑う姿を見ていると、施設内を包む柔らかく明るい空気に自然と納得がいく。利用者さん、スタッフさん、会う人みんな和やかなのだ。ひとりで生活することが困難になった高齢者の新たな受け皿としてニーズが増えている“サ高住”、介護の現状について菅野さんにお話を伺った。

「“サ高住”は、比較的民間でも参入しやすく、介護度が重くなくても入れます。一番の魅力は自由度の高さですね。限りなく自宅に近い状態で生活できて、看取りまでするケースもあります。急性期病院や施設とのつなぎの役目もあり、幅広い知識、対応、医療連携が重要になってきます」あじさいが運営する“サ高住”アナベル土塔の定員は20人。市内では小規模だという。その理由は「利用者さんと密に関わって納

得のいくものをしたいから」と菅野さん。ご縁があったものとして、流れ作業ではなく人生の最後まで看取るのが使命。「本人の希望と家族の希望は同じではない事が多いんですが、出来る限り擦り合わせをしながら少しでも去っていく人、見送る人の気持ちがよくいったという風にやっていくのがこのスタンスです」

いつしか、利用者さんと本当の家族のような関係性になっていく。「『ありがとう、見守ってるから大丈夫だよ』なんて言って最期を迎えられる方もいて、お互いに力をもらいっこしてるんですよ」と微笑む菅野さん。その結果か、施設は常に満室。空き待ちの方もいる。玄関には、ご家族が毎日欠かさず水やりをしている胡蝶蘭がいきいきと咲き誇る。毎日のように来てお昼寝をしていく旦那さんもいるそう。良質な家族関係をサポートするのもこの役目。

大変で、先行きが見えないとき モノではなく、その人柄に救われる

「私たちの仕事って、人生の中のいい時ではなく、困っている時を支える仕事なんです。利用者さんご本人も、ご家族も、不安で、大変で、先行きが見えないとき。特に介護

で一番最初に必要になる介護用のベッドは、不安を受け止めて、いかに親身になって対応してくれるかが重要なんです。福祉用具が必要な時はいつも、親身になってくれるこらぼワークの鈴木さんをお願いしています」サ高住が提供するのは居室空間のみ。そのため、入居の際に必要なベッドや車イスなどの福祉用具を、こらぼワークがひとり一人の状態にあわせて用意する。

「どうしても価格勝負になってしまう側面もありますが、物を売るのは最終的に人で、人が人を選ぶんですよね」ヘルパー、福祉用具事業者は末端で支える必要性が高い仕事だが、その内容はとてもハード。入退院や刻一刻と変化する状況にあわせて、24時間体制で柔軟に対応しなければならない。そういう時に嫌な顔をせず、迅速丁寧に対応してくれる、そんな人柄に利用者さんも家族も救われるという。「どのお客様に対しても平等に、丁寧に、真摯に向き合ってくれていますね。その人柄がご本人やご家族に好かれていて、まるでくまさんみたいな人かな」とこらぼワーク担当の鈴木さんについて、菅野さん。「つい甘えてしまっただけでも嬉しいしちゃうのよ」というお客様も多いようで、深い信頼関係が感じ取れる。





施設内で不具合があればすぐに駆けつけ、修理できることはその場で対応する。その行動力が信頼につながる。



怪我や容体の変化など、利用者さんの状況が変わると急に必要になる福祉用具。不安を感じさせる間もなくスピーディーに対応する。この日もベッドの入れ替えを手早く行っていた。



車椅子はお年寄りにとって手足のようなもの。ちょっとした調整一つで生活のクオリティが変わってくる。不便がないよう身体の状態の変化に合わせて頻りに調整を重ねる。

利用者さんご家族の 希望をつなげる架け橋に

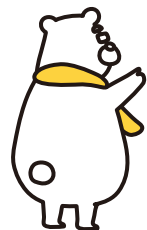
サービス付き高齢者住宅のアナベル土塔では外部のケアマネにも入ってもらい、さらに外部のサービスも自由に利用できる。「自前のサービスだけに範囲を制限してしまうのではなく、公正、中立、オープンで選択の自由があるのが理想です。ここでは『これは出来ません』というのがなくて、早めにご家族にも相談して希望をつなぐ役目もしますし、ケアマネさんも小まめに来てくれる。繋がりが良好なんです」

かゆいところの手が届くような意思の疎通、会話、行動が安心へ。建物はお金をだせばいくらでもいいものは建てられる。でも空気は、それを担う職員、ひとつひとつの言葉、笑顔で作られてゆくもの。

「限られた人生。ひとつひとつ時間を共有しながら、自分も相手もベストなものを作り上げ

られたらと。もちろん経営も大切なんです、ちょっとだけ維持できてお客様に喜んでもらえて、私たち自身も福祉という職業を選んで良かったと思えるようなものをどれだけ出来るかということなんだと思います」

当たり前のようにいて忘れてしまう「お客様目線で、寄り添う」介護。実際菅野さんは利用者さんやそのご家族と一緒に泣いたり、手を握ったり、寝泊まりもする。そんな、人となりの温かい関係性こそが、人を元気に、笑顔にしてくれることをあじさいの「場の空気」が物語っている。



施設情報

サービス付高齢者住宅 アナベル土塔

ANNABELLE DOTO

24時間365日スタッフ常駐。
デイサービス・訪問介護併設の
安心の住まい。

住所：栃木県小山市土塔 247-30
TEL：0285-27-0070
<http://www.npoajisai.org/>

敷地面積	683㎡（約207坪）
延床面積	1,123.39㎡（約340.42坪）
住戸面積	各室20.48㎡（6.2坪）
1階	デイサービス（定員28人） 事務室・厨房・多目的室
2・3階	サービス付き高齢者向け住宅 （各階10戸・総戸数20戸）

運営団体

特定非営利活動法人あじさい

通所介護／訪問介護
居宅介護支援事業
サービス付き高齢者向け住宅



MITSUKO NAGASAWA

永沢 みつ子さん
施設長

YOSHIAKI OKI

沖 喜昭さん
こらぼワーク
福祉住環境事業部
福祉用具プランナー

INTERVIEW

特別養護老人ホームみどり 社会福祉法人 ふれあいコープ

西川田公園と栃木県総合運動公園に囲まれ、緑豊かな景色が広がる「特別養護老人ホームみどり」。一人ひとりの尊厳を守るため、ユニットケア型で70床、さらに10床はショートステイに対応している。窓からあふれる四季、木の温もりで満たされる落ち着いた内装、広々とした開放的な空間。そんな心地よい雰囲気は施設長の永沢さんにも通じている。開口一番、「ほんとうに申し訳ないと思いながら、こらぼワークさんにはかなり甘えていますね」と柔らかい物腰で話し始める永沢さん。元々ふれあいコープでやって

いた福祉用具事業を引き継いだのがこらぼワーク福祉住環境事業部の原点。それがなければこらぼワークの福祉用具事業もなかった。「だからこそ出来る限りコープさんの力になりたいと思っています」と語るこらぼワークの沖さん。まさに恩に報いるような熱意。

「沖さんはお世話をされていて困ったことなど何でもすぐに対応してくれるんです。機械の調子が悪いとその場で半田ごてで修理してくれたり、普通だったらそこまでやらないでしょ、って事までもやってくれるんで助かって

ます」と和やかに永沢さん。例えば、お風呂のすのこをお願いしたら、市販のすのこの規格があわなかったで廃材を使ってわざわざ作ってくれた。既成の商品では対応できない所もなんとかしてしまう。もちろん、入居者さんに対しても介護技術の一連の流れを経験上分かったうえで、合ったものをすぐに提案してくれるという。

永沢さん曰く「沖さんの提案してくれるものはどれもビタリと当たっているんです。現場を本当によく知っているということですかね」

困りごとを抱えた人たちの、
声を拾える場所であるために。

介護に関わるみんなにとって 「やさしい介護」を

介護職離れがクローズアップされている、ハードな介護業界。ふれあいコープでは、職員のモチベーションを上げてケアをする取組みに尽力している。

「法人全体で健康推進室を設置してます。ストレスチェックを実施し、カウンセリングなど看護師が窓口になって常に深く話しを聞ける体制を整えています。職員を守るというのも大きな課題ですね」と永沢さんは教えてくれた。

大変な介護現場の仕事の負担を少しでも和らげるために福祉用具の力は大きい。例えば、入浴時の介助。「私自身も実際に特浴機に入ったことがあるけど、あまりいい気分ではないんですね。なるべく抱えてお風呂にいれてあげたいと個浴にしていたんですが、いざやってみると現場の介護職員から『体力的に大変です』という声が上がって…そこで冲さんに相談して、施設にあっ

た入浴用のリフトを入れてもらいました」利用者さんも快適になると同時に、介護職員さんにとっても腰痛の軽減になる。介護をうける側もする側にも優しい福祉用具はニーズに合わせて日々進化し続けている。

人とのつながりを再び創る 「地域の再生」を目指して

「デイサービスや在宅支援で利用している時間帯だけではなく、介護者が帰った後にその人はどういう風に生活しているのか、ご家族の状況も踏まえた所までみる」というのがふれあいコープの理念に中にある。いつでも介護が必要な人の心の支えになれるように、という想いがそこには込められている。

現在もふれあいコープの施設には一般開放している地域の方との交流スペースがあるものの、今後はもっと地域と関わりたいと意欲的な永沢さん。「どんな困り事でも『あそこに行けば、何とかしてもらえる』と思っただけの法人でありたいですね。

理想は誰かの手を必要とする人を、地域全体で見えていくこと。その一貫として、介護保険制度の中では拾いきれない部分を有償ボランティアを募ってサポートする『おたがいさま』や、必要な時に必要なサービスを 365 日 24 時間体制で提供している定期巡回・随時対応型訪問介護看護『コープ安心ケアシステムみどり』を展開しています」
いずれも共通するキーワードは「地域密着」ということ。身近な誰かと話せたら、誰かが気遣ってくれたら、誰かに頼ることができたら、防げるものが、より良くなるのがたくさんある。ふれあいコープは、人とのつながりを再び創る「地域の再生」への一歩を、しっかりと歩みは始めている。



施設情報

特別養護老人ホーム みどり

MIDORI

高齢者から子どもまで
安心して暮らせる町を目指して。

住所：栃木県宇都宮市緑 5-13-6
TEL：028-616-6500
<http://fureai-coop.com/>

延床面積 2908㎡（約 881 坪）
特別養護老人ホーム
ユニットケア個室（定員 70 床）
ショートステイ 個室（定員 10 床）

運営団体

社会福祉法人ふれあいコープ

特別養護老人ホーム／ショートステイ
デイサービス／小規模デイサービス
訪問介護／居宅介護支援
小規模多機能型居宅介護



INTERVIEW

のん美里ホームながおか 社会福祉法人美のりの里



介護の
現場を
めぐる旅

デイサービスセンター

施設情報

のん美里ホームながおか

NONBIRI HOME NAGAOKA

住所：栃木県宇都宮市長岡町 167-5
TEL：028-622-7007
<http://www.minorinosato.or.jp/nonbiri/>

通所介護 / 居宅介護支援事業

ひとりの人間として、 ニーズに向き合い続ける

宇都宮市環状線から1本入った里山のふもと。見渡す限りの大自然、響き渡る天使のような子どもたちの声。デイサービス、居宅介護支援事業を展開する「のん美里ホームながおか」は桃源郷のような場所にある。実は、ここはこらぼワークと深い関わりがある施設。福祉と労働を支援するコミュニティを里山につくるという「福祉と協同の里」というこらぼワーク設立当初からのビジョンを実現した場所だ。隣には「ありんこ保育園」、障害者福祉サービス事業所「ソーシャルファーム長岡」がある。「おかみさん」のような存在で利用者さんから親しまれている施設長の大橋さんに施設とデイサービスの現状について教えてもらった。「定員18名、要支援1～要介護5の方が利

用しています。『豊かな自然』『家庭的な雰囲気』『隣が保育園』という理由で選んでいますね。地元の方からお裾分けしてもらった食材がその日の食卓に並んだり、自然の中で美味しいご飯を食べる。人が元気になる基本なんじゃないでしょうか」ケアマネ、相談員、調理員…様々な立場から利用者さんの声に応えようとする姿が随所に見える。「日曜の受け入れを希望する声が多かったので、正月以外は年中受け入れています。サービスを提供する側される側ではなくて、同じ視点に立つことで、本当に利用者さんが求めているものが見えてくるんです」求められるのは個人個人のニーズを満たしていけるようなサービス。まずは応えようという気持ちを持つことだと大橋さんは語る。

関わるみんなの力を活かし、 地域社会に還元する

施設では、利用者さんがいきいきした顔で洗濯物を畳んだり、自然と手が動いている姿が印象的。「やれる能力はあっても、自宅では家事から離れてしまった方が多いんです。でもここ来ると『私がやってあげるよ』と手伝ってくれる利用者さんばかりなんです」多くのボランティアの方も関わってくれている。「残念なことに亡くなられてしまった利用者さんのご家族が、その後もボランティアとして施設のお手伝いをしてくださっています」のん美里ホームでは、地域に開かれた施設をつくるという新たな試みが始まっている。利用者さんの活力を社会の中で活かし、地域の人の交流の場にするため、大橋さんの「声」に応えようという姿勢は、終わることがない。

心から温かくなれる、
みんなの場所を。

介護するご家族の生活を守りながら、悔いのない人生を。

INTERVIEW 地域交流センター さくら星の宮

ケアマネの仕事は「笑顔を取り戻すこと」

認知症対応型デイサービス、グループホームを提供している「さくら星の宮」。ご家族や地域の方に認知症ケアについて伝える地域交流センターも併設する。今回はケアマネジャーの阿部さんにお話を伺った。「家族もご本人も、大変な状態になってくると笑顔が消えてしまいます。生活を支えることで笑顔を取り戻すのがこの仕事の本質だと思います」と真摯な眼差しで語る阿部さん。突然訪れる介護。初めはどうしてもサービスを上手く使えずにケアマネ頼みに。しかし阿部さんは「しっかり丁寧にお話をして、ケアマネ主導ではなく家族主導の介護を目指しています。ご本人も家族も最期まで悔いのないように生きてもらうのがケアマネの使命。家族の介護負担を減らすのも大きな役割だ。例えば住宅改修のケースでは、脚の怪我をきっかけに歩行器を使いたいと相談を受けた

が、軽い認知があったため新しいものを受け入れるのが難しいと判断し、住まいに手すりを付けることに。改修計画は生活環境や改善したい点など考慮して、こらぼワークの福祉用具担当の沖さんが提案。ご本人の機能を遅らせないようにするため、ご家族の負担を減らすために、福祉用具が力を発揮する。近年、親の介護のためにやむ無く仕事を辞める家族が増えている。そんな現状に阿部さんは警鐘を鳴らす。「ケアマネはご家族の方が介護をしながら仕事を続けていけるように支えなければならないんです」「ケアマネの知識は広く浅い。他の事業所さん、こらぼワークさんはじめ福祉用具さん、リハビリさんなど、みんなの知識を還元してもらいながら全体を調整するのが仕事です」と語る阿部さんの姿は、まるで映画監督のよう。誰もが迎えたい納得のいく最高のハッピーエンド。それを目指して、携わる人たちの力と想いをもとに、たった一度の「人生」をまとも上げていく。



介護の現場をめぐる旅



ケアマネジャー



KAZUFUMI ABE

阿部 和史さん

管理者
介護支援専門員
社会福祉士
介護福祉士

施設情報

地域交流センター さくら星の宮

SAKURA HOSHINOMIYA

住所：宇都宮市屋坂町 1112 - 3
TEL：028-656-3311
<http://day-center.sakura.ne.jp>

ショートステイ／デイサービス
グループホーム（高齢・認知）



INTERVIEW 小山市 生活支援サービス

自宅で暮らすお年寄りの
ちょっとした不便を支えること。

介護の現場をめぐる旅



生活支援サービス

毎日のちょっとした不便を支える、暮らしのなんでもサービス

暮らしの中では、ちょっと誰かの手を借りれば、生活の質が良くなるということがある。そんなニーズを満たすのが、市町村が提供する「生活支援サービス」。人助けをしたい人と援助を求める人をつなぐ事業でもある。こらぼワークでは小山市から受託して、ゴミ出しや除草といった日常生活の支援をしている。週1度サービスを利用しているおひとり暮らしの男性のお宅を伺った。あたたかい陽射しがふりそそぐ縁側。そこから眺める手入れの行き届いたお庭。毎日の暮らしを豊かにしてくれるこの日本庭園は、年をとるにつれ手入れが大変になった。この立派なお庭の持ち主は、92歳とは思えないほどしゃんとされた佇まい。しかし元気で力仕事は難しいと感じはじめ、地域の包括支援センターに相談に行ったのが10年ほど前。そこからずっと、こらぼワークにサービスをお願いしている。

こらぼワークの担当山本さんが訪れるなり「待ってました」と言わんばかりの満面の笑みで迎え入れてくれた。「主に庭の手入れをお願いします。夏は1ヶ月もやらないと、敷地が広いからね。山本さんは仕事がうまくて、早いから助かってます」外の仕事ができない雨の日には家のお掃除を頼むことも。生活支援サービスは介護保険の中でヘルパーには頼めない家事を安価にお願いできる、隙間の受け皿サービス。「なんでも相談できて、頼まれれば何でも」のスタンスで、かゆいところに手が届くサービスを提供するのがこらぼワークの仕事。「元々学校の先生をやっていた方なんで、こっちは色々先生に教えてもらってるんですよ」と利用者さんを尊敬の眼差しで見つめる山本さん。自然な人間同士の関係性がそこにはある。「こうやって週1回1時間会っていると顔なじみになっていくんです。お茶を飲んで話すことで利用者さんの暮らしが明るくなってくれる」と親しみを込めて話すこらぼワーク鈴木さん。除草や剪定以外にも利用が多いの

がゴミ捨て。最小単位の30分程度で出来るので、月に8回行っているお宅もある。朝ゴミをとりに行って声をかける。そんな人と人との繋がりが感じられる温かさに満ちた支援の形は、地域ケアの軸として大きな可能性に満ちあふれている。





地域包括ケアシステムの 構築を目指した制度の変化

2015 年からスタートし、2017 年春に本格的に全国で実施される新しい介護保険制度「介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）」の制度改正によって、介護保険は各自自治体に軸足が置かれるようになる。住まい、医療、介護、保健、生活支援などが一体的に提供される体制「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、ひと足早く総合事業をスタートした小山市の高齢生きがい課、室橋主幹にお話を聞いた。

「総合事業がスタートする背景として、介護保険による手厚い介護で、本来なら自立できる人の力をそいでしまう、介護度が上がってしまうという現状があったんです」と室橋さん。総合事業の対象となるのは“要支援1・2”など介護度の軽い方。早い段階から住み慣れた地域で介護予防を行うことを目的としている。利用者は簡単なチェック項目だけで

サービスが使えるようになるメリットも。「総合事業の生活支援とは見守りを兼ねた家事などのことです。昔であればご家族やご近所さんがやってきたものなんですよ」当たり前のようにあった地域での助け合いは、核家族化など社会の変化や制度によって、どんどん希薄になってしまった。さらに総合事業は、介護業界の深刻な人手不足に対する一手ともなっている。「小山市では『生活支援の担い手養成講習会』を開いています。受講者は、介護資格がなくても総合事業の緩和サービスが出来るようになりました。介護福祉士やヘルパーなど専門職の人たちが介護度の高い分野でより手腕を発揮出来るようになるだけでなく、地域のために何かしたい人にとっては社会へ参加するきっかけにもなります」小山市では 2016 年4月にスタートし、半年後には総合事業の利用比率が6割を超えた。「予想以上に浸透している」と嬉しい表情の室橋さん。小山市では「いきいきふれあい事業」など地域で定期的に集い、支えあ

う地盤があったのが大きい。そして、ケアマネジャーによる丁寧な説明もあって、現行サービスと遜色ない総合事業の使い方への理解が事業所さんや利用者さんの間で浸透してきた。

「介護保険や総合事業など行政のサポートは勿論ありますが、福祉のニーズにはどんどん多様化し、カバーするのが難しいというのが現状です。これからは、民間や住民同士の支援が広がっていけばいいですね」と室橋さんはこれからを見据える。法や制度には隙間があり、どうしてもこぼれ落ちてしまう「声」がある。その声に耳を傾け、隙間を埋めていくのがこらぼワークなどの民間企業の役目。様々な立場の人が協力し、持ちつ持たれつの関係性を築きあげること。それこそが失われかけていた「地域の助け合いシステム」の礎になっていくことだろう。



仲間と一緒に、仕事をつくる

企業組合とちぎ労働福祉事業団

<http://www.kyoudou.net>

本 部	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-659-4959
宇都宮事業所	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-680-6598
小山事業所	〒323-0808 栃木県小山市出井 1523-19 協栄流通㈱小山物流センター内 tel 0285-25-1805 fax 0285-25-1816
福祉住環境事業部	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-684-2403
ソーシャルファーム 長岡	〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町 293 tel 028-680-6612 fax 028-680-6613
ソーシャルファーム 小山	〒323-0807 栃木県小山市城東 2-8-19 tel 0285-39-6270 fax 0285-39-6271

Publishing : CO-LABOWORK
Art Direction & Design : FRONT DESIGN
Edit : Hitomi Yoshida (FRONT DESIGN)
illustration : Syuichi Saito (FRONT DESIGN)

We are deeply grateful to all the people who helped to create this paper.

Copyright 2015 CO-LABOWORK. All Rights Reserved.